

レーザー光当て可視化、手術を1回に

# 眼底治療に新たな光

大分大学と隣県企業との西日本電線（大分県）が、糖尿病や加齢による眼底症の病気を手術する手術、眼底内にレーザー光を当てて治療を行う可視化する手術装置の共同開発に取り組んでいる。手術中に造影剤を投与し、造影剤が血管に集まる。従来、数回ばかりだった治療が一度で済むメリットがある。「画期的な新技術。患者の負担軽減、手術精度の向上につながる」と関係者。2014年度の實用化を目指している。



手術中蛍光眼底造影装置の「光ファイバープローブ」(西日本電線提供)



尾下 尚典  
研究開発部長



尾下尚典准教授



尾下尚典准教授

共同開発しているのは「手術中蛍光眼底造影装置」。大分大医学部の眼科が中心となり、西日本電線の技術者が光ファイバーの加工技術を持つ西日本電線が装置の改良や開発を進めている。共同開発しているのは「手術中蛍光眼底造影装置」。大分大医学部の眼科が中心となり、西日本電線の技術者が光ファイバーの加工技術を持つ西日本電線が装置の改良や開発を進めている。

## 大分大と西日本電線が装置開発

## 14年度實用化目指す

同大などにより、糖尿病レーザー光を当て続ける「2014年度實用化目指す」

「眼底内の「造影」として、造影剤が血管に集まる。従来、数回ばかりだった治療が一度で済むメリットがある。『画期的な新技術。患者の負担軽減、手術精度の向上につながる』と関係者。2014年度の實用化を目指している。」

「眼底内の「造影」として、造影剤が血管に集まる。従来、数回ばかりだった治療が一度で済むメリットがある。『画期的な新技術。患者の負担軽減、手術精度の向上につながる』と関係者。2014年度の實用化を目指している。」

### 手術中蛍光眼底造影装置

